

とこい洋治  
県政報告

## 笑顔大好き

E G A O

D A I S U K I

2004.8.8  
VOL.18  
とこい洋治後援会  
〒319-0205 西茨城県岩間町神辺1745  
TEL0299(45)6818  
FAX0299(45)0818ふるさとの歴史と文化を、  
次代に引き継ごう!

▲ 環境商工委員会で質問に立つ常井洋治議員。新任の部長、課長には初めての委員会ですので、緊張感が漂っています。質問事項を絞り、執行部に負けないくらい事前勉強を心がけ、「常井ノート」を机の上に置いて気合いを入れてかかります。でも、ユーモアで場をなごやかにする工夫も忘れません。（16年6月）

## 環境商工委員会・情報委員会で活躍

常井洋治議員は、現在、環境商工委員会に所属しています。この委員会は、地元友部町の総合流通センターを始め、常日頃から、同議員が最も関心を持って活動している中小企業・雇用対策や地球環境を守る対策を担当する重要部局である生活環境部と商工労働部を所管しています。同議員は初当選以来、常任委員会での連続質問更新中ですので、引き続き大いに県政に物申していくと張り切っています。

また、情報委員会は、「県議会だより」の発行を担当しますので、10月から始まるNHKデジタル県域放送での広報も加えて、これまで以上に皆様に分かりやすい情報の提供に努めてまいります。

どうぞ、今後とも常井議員に対し皆様のご支援をお願いいたします。

## 11月1日を「いばらき教育の日」とする条例など議決

平成16年第2回定例県議会は、6月1日から11日までの11日間開かれ、条例、意見書、請願など24議案を可決、承認、採択しました。補正予算は、ありませんでした。

なお、第3回定例会は9月2日から27日までの26日間開催されます。本会議、各委員会とも当日に申し込み、傍聴できます。ぜひ、ご来場ください。●県議会事務局 TEL 029-301-5613



常井議員が、皆さんとともに頑張る！

# 着実に進む、地元の道路・河川整備

— 水戸土木事務所との勉強会で強く要望 —

常井洋治議員は、毎年、水戸土木事務所（渡邊一夫所長）と勉強会を開催して、地元地域の道路・河川等の要望を文書にして提出しています。

常井議員が、地元をくまなく歩き、皆さんと親しく接する中で、要望として出されたものです。

地域を思いやる心を持った方々のその思いの実現に向けて、精いっぱい努めております。

皆さんの声が、常井議員の背中を押し、行政を動かす力になっています。

今回は、3町で、合計33項目を要望しました。県の土木予算は全体的に極めて厳しい中ですが、この機会を通して、地元の要望を確実に伝え、事業推進を要請しました。

お陰様で、諸事業が着々と進んでいることが、確認できました。地権者の皆様のご協力に感謝いたします。

ここでは、その一部の概要をお知らせします。



▲勉強会では、渡邊所長（常井議員の左隣）以下8人の課長さんたちと逐一予算化や進捗状況を討議するので、2時間を超える。図面で確認しながら、一息入れることもなく真剣に進める。役所には分からない住民の生の声を伝えるので、課長さんたちにも役に立っている。（16年6月）

## 友部町

- **友部IC～穴戸小付近（友部市街地方面）の整備**  
（県道大洗友部線）
  - ・16年度予算8,000万円。延長900mの一部で排水機能補償工事を先行し、引き続き改良工事に着手予定。用地取得率57%。友部IC口は、現在、文化財の事前調査を実施中。
- **環状道路（鴻巣跨線橋～友部小入口）の整備**  
（都市計画道路宿大沢線）
  - ・16年度予算7,000万円で、路盤工事と用地取得（交差部拡幅）を予定。17年度供用開始を旨す。
- **旧畜産試験場前交差点改良**（県道平友部停車場線）
  - ・16年度に、旭町～友部駅方面右折車線を先行整備。17年度に、全線供用開始を旨す。
- **中央病院前通り（内原ゴルフ場付近）の拡幅**  
（県道友部内原線）
  - ・延長1,600mについて、用地測量済み。県単独事業で五平側内原町都市計画道路路口から、整備していく方針。
- **総合流通センター～茨城中央工業団地の整備**  
（県道石岡常北線、スナック「エリア」付近から東側）
  - ・16年度予算1億円。延長900mの早期開通を旨し、現在一部工事中。一部未解決用地について、16年度に取



▲友部町環状道路が現道と交差する友部小付近。1日も早い開通を求めた。

用手続開始を検討。県庁方面への幹線道路となる。

- **仁古田十字路の交差点改良**（県道大洗友部線）
  - ・16年度家屋移転完了。17年度に工事着手予定。

## 岩間町

- **土師十字路の改良と桜井橋への歩道橋設置**  
（県道水戸岩間線）
  - ・16年度予算5,000万円。桜川の桜井橋の側道橋（下流部）及びその前後の歩道設置を先行する。
- **B&G海洋センター入り口の危険解消**（県道茨城岩間線）
  - ・県が町と協議を進めていく。きちんとした交差点にするため、町道の整備が必要。
- **国道355号石岡岩間バイパスの整備促進**
  - ・計画延長7,850m、全体事業費94億円で平成元年度から事業開始。17年度から常磐線をまたぐ東成井跨線橋（約10億円）の建設に着手し、19年度に全線開通を予定。接続する石岡有料道路は、16年度末に無料化される。
- **随光寺川、桜川の改修、しゅんせつ**
  - ・随光寺川の改修としゅんせつは、今後も上流に向けて実施予定。桜川の上郷地区、大久保橋付近のしゅんせつは、田植え時期前に完了済。
- **百里飛行場へのアクセス道路の整備促進**
  - ・岩間町域分延長500mを年内に買収調印予定。岩間IC



▲岩間町土師の桜井橋は狭くて、歩行者はいつも危険にさらされている。

から百里まで、全線6,700mを「新設道路」としての整備を重ねて要請した。(新設、直結道路が必要なのです。)

- **長沢の通行不能道(長沢～吾国山「洗心館」)の解消**  
(県道南指原岩間停車場線)  
・ やっと用地買収に入った。今後を着実に進めていく。

## 岩 瀬 町

- **東山田岩瀬線と国道50号との交差点整備**  
・ 国道50号線との交差部(県道岩瀬二宮線と接続)の改良整備を検討中。
- **桜川の改良整備**  
・ 前年度に引き続き、中央公民館前・役場裏間のえん堤の改修を実施中。
- **つくば益子線(畷田～久原地区)の整備促進**  
・ 岩瀬ICのアクセス道路として整備を進めている。16年

度も引き続き、橋梁部の詳細設計を進める。

- **筑西幹線道路の整備促進**  
・ 岩瀬IC～古河方面までの4車線、延長42kmの早期整備を目ざす。



▲役場裏の桜川のえん堤整備を2年続けて実施している。

### ひたすら、交通危険箇所の解消を目ざしていきます。



岩間IC前を通る茨城岩間線の岩間町総合グランド(海洋センター)入口の交差点は、変則十字路で、しかも県道がカーブになっているため、極めて危険な箇所である。地元の桐山東部区の大関英雄区長、田山金一副区長さんが、仲田町長、真家笠間警察署長、渡邊水戸土木事務所長へ要望書を提出した。いずれも、常井議員が案内し、ともに要望した。歴代区長、役員、区民の皆さんの熱意を何とか実現したい。(16年6月)



▲友部町、岩間町を通過する岩間街道の酒沼川近くに、「歴史と語りいの道」の碑が建立された。県土木部、岩間町役場、地元関係者が集まり除幕式が行われた。(16年8月)

主要地方道(県道)の水戸岩間線は水戸市街地と岩間町下郷までを結び、通称岩間街道と呼ばれている。かつての瀬戸井街道の水戸・岩間間を整備したものである。瀬戸井街道は道幅二間(約三・六メートル)で上野国邑楽郡瀬戸井(群馬県千代田町)から水戸城下までの二十八里(約百二十キロメートル)を結ぶ、江戸期に作られた地方街道である。筑波山への信仰の道であり物資の流通、庶民の生活の道であり、情報伝達の道であった。江戸時代の国文学者安藤抱琴・旅の和算家山口和・彰考館総裁立原翠軒・郡奉行小宮山楓軒らが愛宕山に参詣し、土浦藩主や家臣達も岩間と北条陣屋を往復した道であり、幕末期には、武田耕雲斎を始め天狗・諸生の志士達が通過し往來した道でもある。

幕末、水戸天狗党は、元治元年(一八六四年)尊皇攘夷の旗を掲げ筑波山に挙兵した。同年七月二九日、天狗党最激派である田中愿蔵隊が、土師村(岩間町)に侵入した。これに対し諸生派に味方する鯉淵村(内原町)を中心とする近隣村連合の自衛農民で組織する鯉淵勢は、同村の淡島神社に鯉の一字に各村の名を書いた四十五本の旗を掲げ、そこを戦いの拠点にして、田中隊の進路である桜川橋を引き払うなどして明神山に陣取る田中隊と激しい合戦となった。

田中隊は土師村全村焼き討ちの挙に出て村の中心部二十六軒が焼失した。庄屋ほか六名が即死、重軽傷者多数、馬匹の焼死など大きな被害を受けた。これを「明神山の戦い」といい「鯉淵勢の成立」の場所とも言われている。

この天狗党討伐の戦いに参加したのは、岩間町域では土師村、上安居村、下安居村であった。水戸藩の天狗諸生の抗争の悲劇を生んだ街道は、今、ここにさまざまな地域の歴史と文化を発掘継承し、未来を展望する「歴史と語りいのみち」として人々に親しまれている。

(碑文作成は、岩間町史編さん調査員の松嶋繁先生。)

### 歴史と語りいの道

## 岩間街道

「碑の全文を掲載します。」

# 環境商工委員会 (H.16.6.8)

## ●ETC専用ICの社会実験を契機に、総合流通センターの早期着工を!

総合流通センターの3月の火災後の対応状況については、防火帯を広げたり、消火栓の増設を検討、協議していると答弁がありました。次に、常井委員は、友部SAでのETC社会実験の実施を契機に早期着工を目ざすべきだと質しました。これに対し、進出意欲のある企業数社と交渉中であり、今後も積極的に誘致に努めるとの答弁がありました。また、リース、割賦販売の方式も取り入れていくとの方針が示されました。

## ●消防団への県公務員の入団働きかけを!

常井委員は、地域コミュニティの核として重要な役割を担っている消防団組織の充実を図るため、県職員の入団について質しました。鈴木利正消防防災課長からは、県職員に入団を直接働きかけていくとの答弁がありました。また、同委員は、教職員についても、先生が消防団活動に参加することは、子供の郷土愛につながり、教育的効果があるので、入団を働きかけるべきだと述べました。これに対して、同課長は、教育委員会と協議をしながら進めていくと答えました。

現在、県職員で218人、教員で70人が消防団に入団しているそうです。(この質問を受けて、県では、積極的に働きかけを開始しました。)

## ●霞ヶ浦は「300万県民の母なる湖」だという発想を!

常井委員は、38億円もの県費を投入して現在建設中(年内に完成予定)の(仮称)霞ヶ浦環境センターについて質しました。10年近く仮称のままだが、設立理念に合った名前を県民参加の中で早急に決めるべきだと述べました。

続けて、霞ヶ浦の水は、岩間町、岩瀬町では既に農業用水として使われており、友部町には19年度に通水する予定になっており、すべての県民にとって宝物といえる湖なのである。現在、県では、霞ヶ浦を「百万人の湖」と冠を付けているが、むしろ300万人全県民の「母なる湖」として位置づけるべきであり、そういう発想を持つことでセンターの役割は大きく変わってくると述べました。

これらに対し、幾浦久霞ヶ浦対策課長は、「同センターは、県民全体に理解され、活用されるべきものであり、展示内容も霞ヶ浦がよく理解されるようにしていく。」と答えました。

また、同委員は、霞ヶ浦に21世紀型の景観を創出して多くの人を引き寄せる観光資源としたい。そのような夢を県民がともに共有し実現できるように、同センターの中身に工夫を取り入れていくべきだと高橋恵一生活環境部長に質しました。



▲岩間町剣友会、同剣道スポーツ少年団(町田正夫会長さん)は、毎年、友部町、岩瀬町など近隣市町村の剣道場などを招待して、親善合同稽古会を開催している。常井議員は顧問として出席して、300人を超える豆剣士たちを激励した。(16年6月)

▶県道東山田岩瀬線の道路整備期成同盟会に出席した常井議員(左から3人目)。岩瀬からつくば方面への幹線道路の整備に熱意を注いでいる。(16年5月)



▲友部町で開催された、第58回西茨城郡総合体育大会であいさつする常井議員。若人から高齢者まで多くの方が参加する伝統行事である。岩瀬町が優勝した。(16年6月)



◀岩瀬町・真壁町・大和村の合併協議会主催の住民懇談会が岩瀬町公民館で開催された。常井議員は、顧問の立場で出席し、子々孫々にまで素晴らしい合併だったとたたえられるようにして欲しいと述べた。会場には、2階席までいっぱい360人が参加し、地域づくりへの熱意を肌で感じた。(16年4月)

# 燃える郷土愛。全力投球!!

皆様には、常日頃から私の県議会活動に対し、熱いご声援を賜り厚くお礼申し上げます。

私は、15年12月2日の土木委員会において、地域の歴史や文化と昔からの道(みち)との関わりを、もう一度見直すべきだと、「歴史と語らいの道づくり」を提唱しましたが、この度実現の運びとなりました。(3ページをご覧ください。)

道は、昔から、人と人が出合い、様々な文化の交流の場でありましたが、今は、車が走りやすい機能性を求めた通り過ぎるだけの危険性のある「道路」となっています。先人たちが歩いた道に思いをはせ、その地域の歴史や文化との関わりを道路行政の側から、もう一度、視点を変えて見ていって欲しいと思っていました。昔の道端での先人たちの語らいに、そっと耳を澄ませてみれば、心の豊かさを感じ、新たな郷土愛に結びつくと思うのです。

そういう、私の主張を理解して頂いた、県土木部を始めとする関係者の皆様に心から敬意を表し、感謝いたします。

また、天狗党が筑波山に挙兵して140年目を迎える節目の年に、その歴史の一端を語ることができたのを何よりも嬉しく思っています。県内に、このような「歴史と語らいの道づくり」が広まることを期待しています。

選挙に初出馬したとき、ある方から、「道路づくりばかりが県議の仕事ではない。地域の歴史を発掘、顕彰して、次代にきちんと伝える役目を担うべきだ。」と助言を頂きました。私は、これまで以上に安全・快適な道づくりに努めることは勿論ですが、その一言をこれからも大切にしていきたいと考えております。

私、常井洋治は引き続き、皆様の御用聞きに徹してまいります。

今後ともご支援をお願いいたします。暑さが厳しい日が続きますので、くれぐれも健康にご留意ください。



茨城県議会議員 常井洋治